

ひとみずむ 15 FUJIWARA(32)

★四次元の扉が開くとき ～店長兼ミュージシャンのひとり旅～

勤めているゲームソフト販売店の近くに、2年前、量販店ができた。

それに伴い、徐々に売りが落ち始めた。

店長としていろいろ手は尽くしてみたが、売りは戻らなかった。

月一回行われる店長会議では、「売上げ伸び率最下位」を毎回指摘され、店長としても危機的状況だった。アルバイトスタッフたちも士気が落ちていき、辞めていくスタッフもいた。自分の中でも次第にテンションが下がって行くのを感じていた。

テンションの低さは、プライベートにもおよんだ。

8年間続けているギター弾き語りとバンドでのライブ活動もマンネリ化していた。

お客さんの数も、増える気配はなかった。チケットノルマのあるライブハウスに出演するときは、不足分を自分たちで払って出演していた。「飽きられている感」は否めなかった。仕事と音楽、どちらも先の展望が全く見えなくなっていた。

どうすればいいのかわからなかった。

変わりたい、でもどうやって変わったらいいのかわからない。

いつものようにネットサーフィンをしていたある日、

堀口コーチのサイトにたどり着いた。

「元店長、自分と同じ立場だった人なんだあ」

「ひとみずむ」「かないずむ」「店長メルマガ」など、時間をかけて読んだ。

徐々に堀口さんのファンになっていった。

続いて、店長 DVD を購入した。

お店のスタッフをチームと見立て、各個人の能力を引き出すことでお店を伸ばしていく、という堀口さんの考え方に、とても共感した。

「この人のコーチングを受けてみたい。僕は変われるかもしれん」

だが90日コーチングは、いつも「今月は満席です」になっていた。

コーチングを受けたい、でも受けられない そんな状態が続いた。

ある日「今月あと3名募集します」になっているのを発見した。

間髪入れずに、すぐ申し込んだ。

変わることに覚悟はいらない？！

2009年7月6日 オリエンテーションの日。

「おはようございまーす」

堀口さんの声が、とてもクールに電話越しに聞こえてきた。

最近の状況を伝えた。

仕事と音楽、どちらも先の展望が全く見えなくなっていること。

最初の「おはようございまーす」のまま、オリエンテーションは淡々と進んだ。

これからのセッションで取り扱うテーマは、

「音楽とお店のことについて、自分がどうしていきたいか明確にしていく」

ということに決まった。

「今日のオリエンを受けてみて、どうでしたか？」

「思っていたよりも普通の会話をしてるみたいにしゃべれました」

「こんな感じでコーチングも進めていきますのでよろしくお願いします」

「えっ！こんな普通でいいんですか！？」

「ええ。こんな普通な感じでいきますので（笑）」

これから変わるためには、辛いこととかも待ち受けているかもしれない！と、覚悟を決め、気合いを入れて臨んだオリエンだった。

こんな普通でいいんだ！と、少し肩の力が抜けた気がした。

四次元の扉が開くとき。

2009年7月15日 第一回目のコーチングセッション。

コーチングを受ける前に提出する『考察のための質問集』がある。

その中に、「今までやろうと思っていたのに達成していなかったこと、我慢していることトップ10を決めてください」というのがあった。

□音楽に費やす時間□休息□自分の事について考える□友人と遊ぶ□芸術に触れる
□読書□パソコン□旅行□写真□スポーツ
と、答えていた。

「この質問に答えてみて、どう思いました？」

「そうですね。何か、今まで何やかんや理由をつけて、我慢してたこと、やってなかったこと、いっぱいあるんやなあって、再認識しました」

「そうですか～。旅行とか行ってないんですか？」

「はい。全然行けてないですね」

「じゃあ、行くとしたらどこへ行きたいですか？」

「う～ん。やっぱり海外に行ってみたいですね。ヨーロッパだったらドイツ、イタリア、フランスとか、アジアだったら、ベトナムとかインドとかですかね」

「いいですね！海外！！私もいろいろ行きましたけど、イタリア、フランス、いいですよ。すごく建物がきれいで、ほんと素敵ですよ！」

ここまでは、普通の会話でもありそうな感じだ。
だが、堀口さん流セッションはここからが違っていた。

「服のデザイナーとか、旅からインスピレーションを得て、コレクションの服を作っているんですよ。だから、音楽とかアーティスト系は、今まで知らなかった場所に行って、いろんな風景を見て、作品が生まれるんじゃないですかね。だから藤原さんも行ったら音楽活動に役立ちますよ！！」

「そうですね。新しいものを体感していかないと新しいものは生まれないですね。
旅行って、いいかもしれないですね」

「2次元で考えているだけではだめ、3次元で行動していけば、4次元の扉が開く！」

「おお～！それ、すごいですね～！」

三次元。

四次元。

普段の会話では、ほとんど使われることがないであろう言葉。
堀口さんは当然のことのよう、さらりと使っていた。

それがとても新鮮だった。

その言葉には、今までの仕事とライブを繰り返すだけのマンネリな毎日を変えられるかもしれない、という希望の光があるように感じた。

最後に、堀口さんが、不意に聞いてきた。

「藤原さん、本当に変わりたいと思ってるの？」

「はい、本気で変わりたいです」

『僕が、自分自身を変えたい、と切望していることを知っておいていただきたいです』と
質問集に書いたのだ。

「わかりました。じゃあ、セッションの度に、新しい行動を決めていきましょう！」

これから自分が行動して、起こるであろうことを想像すると、
正直少し怖い感じとワクワクした感じが同居していた。
子供の頃、行った事のない隣町に自転車で探検しに行くときのような、
期待と不安の入り混じった、長い間忘れていた感覚を、僕は思いだしていた。

「堀口コーチの得意技、言葉のシャワーを浴びまくり、朝から気分爽快です」と、
早速セッション後、感想をメールした。

以前は、石橋を叩いても渡らないことが多々あった。

しかし、コーチング開始後の行動力は、快進撃と言えるくらいすごかった。
なんだかうれしくてまたまた報告のメールを出した。

.....
堀口さん

こんにちわ～。

いつもお世話になってます。

藤原広尚です。

「四次元の扉計画」の第二弾「ディズニーランドへ行く」
日程が決まったのでメールさせていただきました。

8／6・7のツアーが取れました。
二日間、ガッツリ行って来ます。

最初一人で行く予定でしたが、お店の二番手の子に
「勉強のためにディズニー行ってくるわ～」と言ったら、
「私も行きたいです！」と言われたので、二人で行くことになりました。
留守中のお店は、学生バイトさんメインになりますが、何とかやってくれると思います。

今回、家族とか、友達とか、会社の人とか、色々な人にディズニー行きの件を話したので
すが、大体の人には、最初は「何で急に！？」とびっくりされました。

それで、理由を話すと、「それは絶対いいよ～。勉強になるよ！」って言ってくれて、
賛成してくれました。みんな、僕が感じている新しい事にチャレンジするぞー！
っていうワクワク感みたいなものを一緒に喜んでくれてるのかな～っていう
感じがしました。ワクワク感というのは、人に伝染していくものなんですね。

ということは、自分がもっとワクワクすれば、
周りをもっとハッピーにワクワクになるんじゃないかと
勝手に妄想が広がって、楽しくなってきました（笑）

というわけで、二日間、楽しんで勉強して来ようと思います。
いつもありがとうございます。
では、失礼します。

.....

休日出勤禁止令

2009年8月11日のセッション

「藤原さん、やりましたね〜！！」

堀口さんの言葉は単純にうれしくて、またがんばろうと思えた。

人生初ディズニーランドは新しい発見の連続だった。門をくぐるとそこは夢の世界。
スタッフの心のこもった接客を通して、『人々に喜んでもらうための努力を惜しまないという姿勢』を、ひしひしと感じた。

自分の店とは規模も業種も違う。

だが、その姿勢は見習うべきものだとは強く感じた。

毎日、店頭に立っているだけでは見えないものが見え、視野が広がった。

エンターテインメントの世界の観点から見れば、ライブ活動にも活かせる。

お客さんに夢を提供するという点では、ディズニーランドも音楽もお店も同じだ。

研修に行ったはずだったが、普通に楽しんでいる自分が、そこにいた。

もうすっかりディズニーランドファンになって帰ってきた。

だが、夢の世界から帰ってきたあと、問題点が浮上した。

ディズニーランドに行っていた二日間は、アルバイトスタッフにお店を任せていた。

帰ってきたら店の陳列の状態はくずれていたたり、彼らが中途半端にした仕事が溜まっていた。スタッフのできていない部分が、あからさまになって見えてきた。

それを堀口さんに話した。

「大変でしたね」と言ってもらえるかな？と、どこかで期待していた。

堀口さんは、

「休んだ訳ですから、仕事が溜まるのは当たり前ですね」と、あっさりと言った。

僕はそれを聞いて、「ハッと」した。

そうだ。そのとおりだ。

自分が休むために店を空けたのだから、溜まるのは当たり前だ。

現実にだけ対処すればいいことだ。余計な心配事はいらない。

愚痴モードはたった1分で終了した。

話は、「ではどうすれば仕事が溜まらなくなるか？」
という建設的なモードに変わった。

「僕は、休みの日でも仕事の指示を出すためにお店に顔を出し、
完全オフの日がほとんどない現状なんです」

「え？それでは部下は育ちませんよ。任せられる仕事は部下に任せる。スタッフにもっと期待して、各々の才能を伸ばしてあげる。その方が、彼らは自信を持って楽しく仕事する、その結果店長は休める。いいことばかりですよ。それに、休みが作れる人ほど、仕事ができる人ですからね〜。藤原さんも、休日出勤、今度からやめてみましょう！」

つついとお店のことが気になって不安になり、見に行ってしまう。部下もそんな僕を頼りにし、僕がいないと判断が下せなくなる。だから責任感も自信も付かないまま... 完全に負のサイクルに入ってしまった。

今まで、頭でわかっても、踏ん切りがつかなかった。
『新しい行動をする』が90日コーチングのテーマだから、
「そうですね。やってみます！」と僕ははっきりと答えた。

この日「休日出勤禁止令」が敷かれた。

セッションで決めたとおり、休みの日には店には行かないようにした。
意識して部下に任せられる仕事を任せるような指導を心掛けた。
思わぬ収穫があった。
部下に自分の仕事を教えることで、仕事上の会話が増えたのだ。
今まで、いかに会話が不足していたかも実感した。
彼らそれぞれがお店を良くしていくための意見やアイデアを、
しっかり持っているということを知った。
みんな、けっこうすごい！僕はうれしくなった。

店長は一人で頑張るのではなく、みんなの意見や能力を引き出していくのが使命だ。
完全オフ日を作る！と決心したことをきっかけに、
店長の使命についての深い気づきを得た。

音楽活動にも変化

休日出勤禁止効果で、音楽活動に集中する時間も増えた。

以前は、ライブ前に仕事をして、リハーサルなしで会場へ駆け込むことが多々あった。そんなことがなくなり、ライブに余裕を持って臨めるようになった。

お店のスタッフたちに接するのと同じように、バンドメンバーやファン、音楽仲間とのコミュニケーションも大事だということに気づき、考えも変わった。

今までは、仕事を理由に断っていたライブの打ち上げなども、時間が許す限り参加するようになった。友達や知り合いが、だんだん増えた。比例するかのよう、ブログを見てくれる人の数も徐々に増えた。「色々なことに挑戦している日記を読んで、それに元気をもらっている」という嬉しい意見ももらうようになっていた。音楽活動も、少しずついい方向に進み始めていた。

そして、仕事の事、音楽の事など、いろんな人たちにいろんな助言をもらうことが増えた。以前堀口さんに「ふじわらはさんは、単純だからいい」と言ってもらったが、その意味が分かったような気がした。自分はたくさんの人にアドバイスをもらえるお得な性格だなと思いはじめることができた。全体的に、依然として忙しい日々だが、気持ちはすごく前向きだった！

さらに日々を充実させるために、毎日をどう過ごしていくか？ということテーマにした日もあった。

堀口さんが、たまたま昨日見たという、N T Tの広告のイチローの言葉を教えてもらった。

「イチローはなぜ、同じ毎日を過ごしているのに、未来を作れるのか？」この言葉に共感し、セッション後の感想を堀口さんに送った。

.....

堀口ひとみさんへ

先ほどはお世話になりました。

今日のセッションはいつもより増して、自分にとって濃い内容となりました。

・毎日お風呂に入って作戦タイム。

・日々自分に問いを持つ。
とても地味なことですね。

でも、今の自分にジャストで必要なことだと思います。
「毎日コツコツ続けていったら、知らない間に人生が変わってる」
という堀口さんの言葉が、今日はとても印象に残りました。
感動ポイントでした。

堀口さん、いつもセッションごとに、
色々な気づきを与えていただき、
ありがとうございます。
僕の人生は少しずつですが、着実に変わっていています。
今までどんな事をしてもし変わらなかったのが嘘みたいです。
すごく感謝しています。

さあ、堀口さんや、イチローを見習って、今日からコツコツがんばります。
良い報告があったら、またメールします。
ありがとうございました！
藤原広尚

.....
堀口さんのコーチングを受け始めてからというもの、
月日の過ぎる感覚が、すごくゆっくりしている気もするし、あっという間な気がした。
今までこんなに毎日を濃く生きたことはなかったので、いままでにはない感覚だ。

セッションの間の二週間も、ある意味では長く感じたし
あっという間だと言われればそんな気がした。不思議だった。

お掃除コーチングをテーマにしたセッションもあった。
BOOKOFF に本、段ボール五箱分、売った。予想よりは高値で売れた！
引出のいらないものも、処分。洗面所と台所のシンクを磨きたおした。
外見もイメチェンだ。大阪のおしゃれスポットにある美容室を友達に紹介してもらって、
髪を切った。それから、ハーフマラソンへ出場するために、練習も始めた。

初海外旅行の計画も立てた。
急に決めたというのもあって、一人で決行することにした。

「仲間との旅行はこれからできるチャンスはたくさんあるはず」
「初海外。しかも一人。こんな経験は今しかできない。それはそれで面白いじゃないか」

堀口さんのコーチングを受けているうちに、
前向きな発想に、自然と転換できるようになっていた。

そう考えると、「大丈夫、なんとかなる」という気持になり、
準備をスムーズに進めることができた。

出発前、妄想喜劇。

2009年10月29日

ついに、セッションで旅行についての話題になった。
一人でイタリアに行くということを伝えると、
堀口さんは特に驚くこともなく、こんなことを言った。

「せっかく一人で行くことだし、他の参加者を楽しませることができたらいいですね」

「えっ！？どういうことですか？」

僕はこの時、イタリアできれいな街の風景の写真を撮って、
それをブログに上げようとは思っていて、それ以外のことは全く考えていなかった。
だから、その発言は予想外のものだった。

「ギターを持って行って、所々で弾き語りを披露するとか、いいんじゃないですかね。
その動画を撮って、ネット上に公開したら、ファンも喜ぶかもしれないですし。
わはははは！！楽しそーー！！！」

「...ギター持って行くんですか！？僕はごく普通に観光しようと思ってました」

「それでもいいですけど、せっかく特技を持っているんだからもったいないです。
だって誰でもできることではないですもん。藤原さんならではですよ！
音楽は人とつながりが持てますよ。いいなあ」

「...そ、そうですね。でも、ツアー旅行で弾き語りっていうのはかなり奇抜ですよ。わあ、すごいなあ！」

「どんな場所でも自分らしさをアピールしていくのは大事ですよ。ステージに立つ人ならなおさらです。そして常に、目の前の人を喜ばすためには自分は何ができるかっていうことを考えとかないと。旅行で藤原ファンをつくってきちゃいましょう！」

僕は普段、自己主張はあまりしない。むしろ、おとなしいタイプだと思う。そんな僕が一人で海外。そこまでは何とかチャレンジできると思っていた。

堀口さんはさらに、人を喜ばせることを考えるのだと言っている。
レベルが高すぎるんじゃないか？
自分にそんなことができるだろうか？

難題だろうが、ここで投げ出しては何も変わらないままだ。
正直、心の中は不安でいっぱいだったが・・・。

「おお～、そうですね！じゃあ、旅行に持って行けるような、ミニギター買います」

「いいですねえ！超ファンできそう！楽しみだな！！！所々の観光名所の前とか、ツアーバスの中とか、レストランとか、そんなところで藤原さんが歌ってたらおもしろいですよね。みんな喜ぶですよ～。あはははは～」

搭乗前、折れそうな心。

楽器屋を何件か周り、ヤマハのミニギターを買った。

値段の割にはいい音がした。

リュックのように背負えるタイプの専用ケースも買い、準備は整った。

イタリア出発前の二日間は、超ハードだった。

人生初のハーフマラソン大会に出て、途中から雨に濡れ、ドロドロになりながらも何とか完走。そのあと、疲れた足を引きずりながら、ライブ会場へ。

1 ステージをこなし、打ち上げへ参加。帰って少し寝てから仕事に行った。
仕事から帰ってきてからは、旅行の最終準備。

2009年11月3日

あっという間に旅行当日を迎えた。

空港のロビーに着くと、同じツアーに行く人たちが集まっていた。

全部で20人くらいだろうか。

女性が8割くらい。50～60代の人が多いように見えた。

自分と同じくらいの若い世代の人は4～5人。

友達同士、親子、夫婦などで参加している様子だった。

たった一人で、しかも謎の楽器ケースを背負った僕の姿は、目立っていた。

搭乗手続きの順番待ちで並んでいる時に、後ろの方から、

「あの人、何背負ってるのかな？バイオリンかな？」

「バイオリンやったらウイーンやろ。イタリアやから...何やろな??」

おばさま特有のヒソヒソ話が聞こえてきた。

みんなが僕を白い目で見ているように感じられた。

『堀口さん、僕耐えられないかもしれないです〜』

コーチングをスタートして、初めて心が折れそうになった。

でも、もう引き返すことはできない。

「皆様、この飛行機は間もなく離陸いたします。シートベルトをもう一度お確かめ下さい」
飛行機は目的地へ向けて飛び立った。

イタリアの僕。

ミラノに到着すると、そんな弱気はどこかへ吹き飛んだ。

しばらくすると、同じツアーの人に

「一人で来てるの？」

「その楽器みたいなものは何？」

と、話しかけられるようになった。

みんなが僕の事を気にしていて、話題になっていたようだった。

話しかけられたことをきっかけに、いろいろ身の上話をするようになり、
何人かの人と親しくなった。

特に仲良くなったのは、僕より10歳くらい年上のカップルだ。
食事のテーブルで相席になり、お互いお酒が好きなことが幸いして話が弾んだ。
2人とも自分で会社を経営しているらしく、趣味も多彩で、
僕の周りにはあまりいないタイプの人たちだった。

この人たちなら大丈夫かもしれないと思い、
僕が弾き語りをしている動画を撮るのを手伝ってくれないか、と頼んでみた。
返事はオーケーだった。

場所は、かの有名なピサの斜塔前で撮ることにした。
自由時間の30分の間に撮影をした。
雨上がりの晴れた空と斜塔をバックにした、雰囲気のある映像が撮れた。
ギターの音以外に、英語やイタリア語も聞こえてくる。
自分でも、かなり気に入っている。

撮影をしてきたことを他のツアーの人に言うと、
「そんな、呼んでくれたらよかったのに～。弾き語り聴きたい～」
という話になった。この話を横で聞いていた添乗員さんから、
「じゃあ、藤原さん。帰りのシャトルバスの中でライブしてください」
と言われた。喜んで、申し出を受けることにした。

バスの中でライブなんてやったことないぞ。
しかも客層もいつもと全然違う。自分の歌受け入れてくれるかな？
でもいつもみたいに思いっきりやるっきゃない。何とかなるっ。

帰りのシャトルバスは、ピサからバスターミナルまでの十分間、
ミニライブ会場になった。

自分で作詞作曲した曲を歌った。みんな拍手して喜んでくれた。
すごく嬉しかった。今、みんなに受け入れられている！

降りるときに、バスの運転手さんが、大きく手を振って、
笑顔で「グラッチェ～！！」と言ってくれた。

このことをきっかけに、旅の状況がガラッと変わった。

添乗員さんに、バスの中やレストランなどでの演奏を頼まれるようになったのだ。

「歌良かったですよ～」と色んな人から話しかけられた。

50代くらいの奈良のおばさまが、「ファンクラブ会長やるわよ！」とまで言ってくれた。
気づいたら、参加者全員と顔見知りになっていた。

ライブハウスとかに出入りしないような人でも、
自分の音楽を聴いて、良いと思ってくれる人っているんだ！
『堀口さん、イタリアでミラクル起こってます！ありがとうございます』

みんなでレストランに行ったり、タクシーや地下鉄に乗って街を散策したり。
おかげで8日間、思う存分旅を楽しむことができた。

バスやレストランでの演奏、動画撮影。
気がつけばセッションの時、堀口さんが言っていた通りになった。
とても不思議で、そして面白かった。
ナポレオンヒルが言う、「思考は現実化する」は本当だった。

8日間店長不在のお店も、みんなで協力して仕事をしてくれていた。
スタッフは皆、さらに生き生きと仕事をするようになった感じすらあった。
僕がいなくても大丈夫だ。（笑）

トリを務めたライブ

旅から帰ってきて、僕は完全に自分が進化していることを実感した。

イタリアでの弾き語り動画を youtube、ブログ、MIXI コミュなどにアップした。
「気に入るすぎて、毎日見えています！」とファンの方に言われた。

堀口さんに旅行の報告をした。
するとさらにレベルを上げるためと、本を薦められた。
「一番になるひと」と「罪と音楽」をゲット。
努力の人と天才の人。その対比も面白く感じた。

つんく♂さんの本にとっても共感した。
ステージに立つ人間として大事なことがいっぱい書かれてあった。

一番心に残った所は、「二時間のステージをイメージするのに二時間かけて、しかもセリフも全部書いて暗記する」という箇所だった。

11月23日にバンドでのライブがあった。

普通のブッキングライブでは過去最高の動員を記録した。

五組バンドが出たのだが、会場超満員の中で、トリを務めた。

「今年見たあらゆるライブの中で、一番良かった！」

お客様に言われた。

アンコールももらった！

そして、2年前から見てくれているお客様からメッセージをもらった。

.....
今思うのは、藤原君が‘抜群’でトリ纏めたな、と思います。

なにより「（外界に向けて）閉じてない」ことが最高でした☆

たぶんほぼ身内向けになりやすい場所で、そういう楽しみも

あると思うけど、あえてその中でいつもの客も、新規の客も、

もしかしたらそこに居ない人に向けてさえ‘届けたい想いを

勝手に感じてしまう様な強い『意思』が今も残っています。

こここのところ藤原君がグッと「強さ」を増してきた様に感じて

いて、あの面子の中でそれを感じられたのが嬉しかったです。

その調子で、更なる新たなステージに駆け抜けて下さい☆

.....

おわりに

僕は約半年間、お店と音楽活動をもっと良くしたくて、
いろいろな新しい行動をしてきました。

それらは、僕が心の奥ではやりたいと思っていたけど、
いろんな言い訳をして、やれなかったものばかりでした。

やりたいこと思う存分やるのは、すごく楽しいこと。
誰だって楽しいことならすすんでやる。
だから、こんなに行動できたんだと思います。
堀口さんは、それに気づかせてくれました。

これを読んでいる人の中にも、以前の僕と同じように
変わりたいでも変われないという人がいるかもしれません。

この物語を読むことで、少しでもそういう人たちが
自分を変えるためのきっかけになればと思っています。